

TGM

洗淨機 カスタムも対応

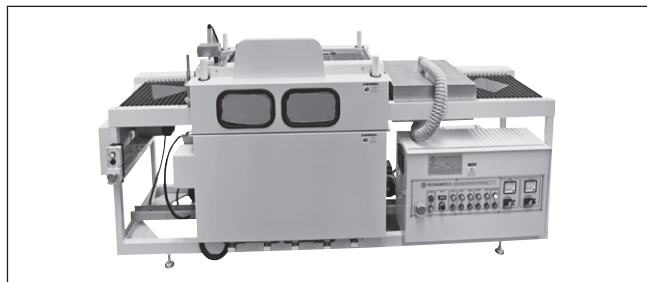
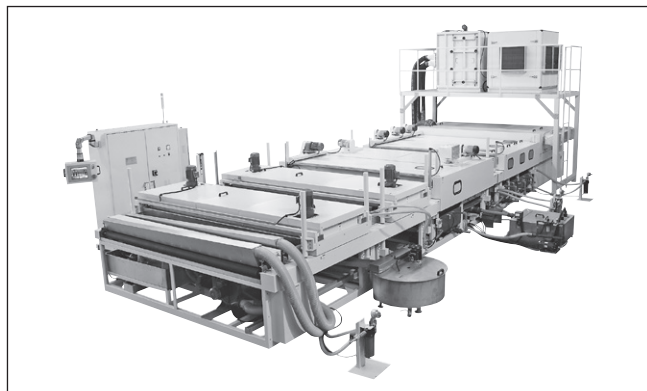
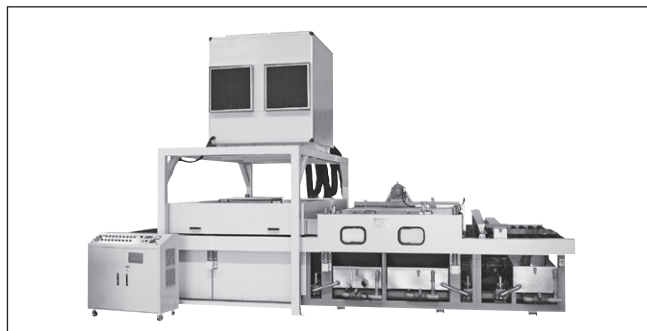
世界のガラス情報を発信

TGM(東京都千代田区、弘中崇社長、03・6261・1260)は、台湾・LCM(LI CHUANGMACHINERY)社のガラス洗淨機を販売している。特長は、欧州メーカーの洗淨機では難しい、客の要望に合わせたサイズ、安全機能などのカスタマイズができること。エアナイフ、ディスク、スポンジなどさまざまなタイプがあり、建築用だけでなく産業用、厚さ0・5ミリの薄物ガラスにも対応する。コロナ禍で海外へ行って情報を入手することが難しい中、同社は欧州を中心とした世界中のガラス関連情報を発信し、ガラス加工設備・資材・建材に関する最新情報を届けるマガジンサイト「TGM way」を開設した(詳細は次号)。毎週火曜日と金曜日に新しい情報を配信する。

欧州メーカーの洗淨機の場合、数種類の特定のサイズのラインアップしかないため、日本では工場のスペースの関係から、既製品では工場の中に入らないこともあった。LCM社の洗淨機は、工場のスペースに合わせて設備のサイズをカスタマイズすることができるため、日本でも評価が高い。

近年、ガラスの加工品質に対する要求が高くなってきており、同社にもガラス欠点検査システムの引き合いが増えているという。高い精度でガラスの欠点を検出するためにもガラスの洗淨、乾燥が重要で、洗淨機には高い洗淨性能、乾燥性能が求められている。LCM社の洗淨機は、洗淨性能を上げるためのブラシの数の追加、乾燥性能を上げるためのエアナイフの数の追加、安全機能のカスタマイズなどに対応する。

エアナイフ、ディスク、スポンジなどさまざまなタイプがある。建築用だけでなく産業用に対応した設備もあり、厚さ



上からエアナイフ、付加価値が高く引き合いが多いディスク、スポンジタイプ

0・5ミリの薄物ガラスの洗淨機も製造することができる。洗淨能力が高いディスクタイプは納入実績が多い。

LCM社は1982年創業で、ガラス業界で36年の実績がある。台湾での社名は金吉利機械。認知度向上のため、2017年から海外ではLCMの社名を使用している。台湾で製造し、国内向けに60%、海外向けに40%の割合で販売している。海外にも多数の納入実績があり、600台以上を販売している。TGMが日本での総代理店を務める。